

Characteristic of the package tour of the Tohoku district that used Sendai Airport: For JTB, Kinki Nippon Tourist, Nippon Travel Agency of from September to December in 2002

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒井, 宣昭, 菅野, 将司 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/564

仙台空港を利用した東北地方の パッケージツアーの特徴

—2002年9～12月のJTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行を対象として—

酒井 宣昭・菅野 将司

I. はじめに

旅行会社の店頭やWebサイトなどでは、国内外のパッケージツアーが多数販売されている。また、各地の空港や観光地、旅館、ホテルなどではパッケージツアーの団体客に出会うことも珍しくない。このパッケージツアー（Package tour）^{▼1}とは、「旅行会社などが主催して一般から参加者を募集し、運送・宿泊・観光などを一括した旅行費用を集めて行う旅行」（広辞苑1998）のことであるが、旅行業法^{▼2}ではこのパッケージツアーを「募集型企画旅行」として位置づけている^{▼3}。

パッケージツアーをビジネスとして最初に行ったのは、イギリスで本屋、印刷屋、出版屋を営んでいたトーマス・クックである。クックの功績について詳述している前田・橋本（1995）と塹江（2001）からまとめると、初めてのパッケージツアーは、1841年7月に禁酒運動に参加する人々を一般から募集して行った貸し切り列車の旅であった。禁酒運動は、飲酒にかわる娯楽を提供するために企画したものであり、クックは広告での宣伝から貸し切り列車の手配、切符の販売、軽食や紅茶の準備、娯楽やスピーチの手配に至るまで全て一人でこなした。36歳になったクックは1845年に「トーマス・クック社」を設立し、彼は本格的な旅行業務に携わるなかで近代旅行業の基盤づくりに貢献した^{▼4}。

日本ではパッケージツアーがいつ誕生したのだろうか。日本におけるパッケージツアーの歴史については、玉村（1999）の記述が詳しい。それによると、旅の計画性と不特定多数を対象

とした募集性という性格を持つパッケージツアーの始まりは、1965年1月に日本航空が海外渡航の自由化（1964年）を契機に販売した「ジャルパック」である。当初は海外向けのパッケージツアーのみの販売であったが、その後には国内向けのパッケージツアーの販売も開始された。日本最大の旅行会社である日本交通公社（現、JTB）^{▼5}が海外向けのパッケージツアーを販売したのはJTBよりやや遅れた1968年4月のことであった^{▼6}。

日本におけるパッケージツアーの萌芽は、これよりもはるかに古い近世の社寺参詣までさかのぼる。前田・橋本（1995）によると、鎌倉・室町時代にさかんになった熊野詣では、先導役をつとめた「先達（せんだつ）」が参詣者への道案内や宿泊所への客引きも行っていたため、参詣者などは先達へその案内料を払っていたようである。また、江戸時代にさかんになった伊勢参りでは、祈祷師であった「御師（おし）」が参詣者を対象とした道案内、宿泊所や飲食の提供、他の観光名所への案内などの幅広い旅行業にも携わっていたようである。ただし、これらの社寺参詣は特定の人を対象であったこと、企画者と参加者との間で法に基づく契約が交わされていないことなどから、現代のパッケージツアーとは形態が異なるととらえるのが自然である。

パッケージツアーに関する研究は、ほとんどが観光学や経営学の分野である。一方、地理学研究では東京発北海道・九州旅行のパッケージツアーの実態を明らかにした山村・石（2000）があるに過ぎない。そこで、本研究ではこれに続いて往路または復路あるいは往復路で仙台空港を利用した東北地方のパッケージツアーの特

徴を明らかにする。本研究で取り上げる旅行会社を決定するにあたっては、事前に様々な旅行会社の Web サイトを閲覧した結果、ここでは数多くのパッケージツアーが展開していると予想される JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行の3社を対象にした。

調査方法は、上述の条件に当てはまるパッケージツアーのパンフレットを3社の仙台支店からそれぞれ取り寄せた(2002年10月中旬)。パンフレットは、取り寄せた時期の関係上、その時期に募集している(いた)2002年9～12月までのパッケージツアーとした。入手したパンフレットからは、ツアー名と行程を示した一覧表を作成した。その結果、この時期に募集している(いた)パッケージツアー数は、JTB35、近畿日本ツーリスト20、日本旅行12の合計67であった。これらの旅行期間は、1泊2日から4泊5日までであるが、最も多いのは2泊3日の52ツアーであった(占有率77.6%)。なお、1泊2日は2ツアー、3泊4日は11ツアー、4泊5日は2ツアーであった。本研究のⅡ章以下では、このデータを基に分析を進める。

本研究の構成は、まずⅠ章ではパッケージツアーの定義や日本におけるパッケージツアーの歴史などについて先行研究からまとめた後、本研究の位置づけと調査方法について明らかにする。続くⅡ章では、仙台空港を利用した東北地方のパッケージツアーの特徴を明らかにするため、1節では観光地等の種別分類にみる行程の特徴、2節では観光地等の地点にみる行程の特徴、3節では観光地での行動にみる行程の特徴について順に検討していく。Ⅲ章では、パッケージツアーの実際の様子、参加者の年齢層や目的などを把握するために行った松島での実態調査の結果をまとめる。最後のⅣ章では、本研究の要点と今後の課題についてまとめる。

Ⅱ. 仙台空港を利用した東北地方のパッケージツアーの特徴

1. 観光地等の種別分類にみる行程の特徴

本節では観光地等の種別分類にみる行程の特

徴について明らかにする。ここで用いる種別分類は、A：空港、B：宿泊地、C：山・高原、D：湖沼・ダム、E：展望台、F：遊覧船・鉄道、G：寺院・城・墓地、H：博物館・美術館、I：物産館、J：体験・工房・牧場、K：その他の11分類である⁷。この分類に従って作成した各パッケージツアーの行程は第1表である。

これをみると、種別分類にみる行程の組み合わせは、旅行会社とツアー名が同じ場合でも1～2か所異なったり、実際の出発空港や宿泊地などが異なったりしている。そのため、旅行会社では観光地や宿泊地などを多様に組み合わせ商品化していることが伺える。以下には組み合わせの例を3つ紹介する。まず28番は、1日目が「A(空港)→A(空港)→K(その他)→D(湖沼・ダム)→F(遊覧船・鉄道)→B(宿泊地)」、2日目が「E(展望台)→H(博物館・美術館)→I(物産館)→C(山・高原)→B(宿泊地)」、3日目が「G(寺院・城・墓地)→G(寺院・城・墓地)→A(空港)→A(空港)」という2泊3日の行程である。次に54番は、1日目が「A(空港)→A(空港)→K(その他)→G(寺院・城・墓地)→G(寺院・城・墓地)→G(寺院・城・墓地)」→B(宿泊地)」、2日目が「C(山・高原)→F(遊覧船・鉄道)→E(展望台)→E(展望台)→D(湖沼・ダム)→B(宿泊地)」、3日目が「D(湖沼・ダム)→F(遊覧船・鉄道)→E(展望台)→H(博物館・美術館)→C(山・高原)→B(宿泊地)」、4日目が「D(湖沼・ダム)→H(博物館・美術館)→F(遊覧船・鉄道)→B(宿泊地)」、5日目が「H(博物館・美術館)→H(博物館・美術館)→G(寺院・城・墓地)→A(空港)→A(空港)」という4泊5日の行程である。最後に55番は、1日目が「A(空港)→A(空港)→G(寺院・城・墓地)→G(寺院・城・墓地)→E(展望台)→B(宿泊地)」、2日目が「D(湖沼・ダム)→G(寺院・城・墓地)→F(遊覧船・鉄道)→B(宿泊地)」、3日目が「C(山・高原)→D(湖沼・ダム)→I(物産館)→J

第1表 観光地等の種別分類にみる行程

ツア一名	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
1 東北大感動号～十和田湖・中尊寺・松島	AAKDFB	EHICB	GGFAA		
2 山寺・平泉・日本三景松島と最上川舟下り	AAGGJB	HGFJB	GGGGAA		
3 景勝地陸中海岸・民話の里遠野めぐりと日本三景・松島	AAJDfB	HHGB	JGGFGAA		
4 喜多方・会津若松・磐梯吾妻スカイラインと名湯・蔵王・東山	AAGGJDB	HKGHGB	DDCAA		
5 2大菊祭り競演と秋色に染まる磐梯高原スカイライン	AACDB	HGHGJB	GHAA		
6 みちのくスペシャルルート～松島・奥入瀬・十和田・平泉	AAGGGB	JCIFDB	EDHAA		
7 日本百景尻尾溪舟下り・十和田・奥入瀬・八甲田と湯ったりみちのく名物風呂めぐり	AAFGB	CI EFDB	CCEAA		
8 東北大感動号～十和田湖・中尊寺・松島	AAEKDFB	EHICB	GGGFAA		
9 最上川舟下りと松島・山寺・中尊寺と名湯鳴子・蔵王	AAGGDB	GJGGFB	EJGAA		
10 秋風景～出羽富士島海山・羽黒山と磐梯・喜多方・中尊寺	AAHDDB	GGEKB	GAA		
11 会津・喜多方・磐梯高原・五色沼と名湯天童・東山	AAGGGB	JDGDDB	GGHAA		
12 豪快・陸中海岸大縦断	AADEEB	IFDEEB	FJJAA		
13 ゆるり名湯花巻と十和田湖・奥入瀬・平泉中尊寺	AAHCB	EFDCCB	GDGGFAA		
14 日本の旅情～十和田・中尊寺・松島	AAECDfEB	HHKCB	GGGGFAA		
15 十和田湖・中尊寺・松島とみちのく名湯めぐり	AAECCB	DDEICJB	GGGAA		
16 秋を彩るみちのく周遊～十和田・奥入瀬・中尊寺と絶景の陸中海岸	AAKDB	CFDDB	FE EEFB	GAA	
17 みちのく温泉天国	AAJJB	FDJB	GGGAA		
18 十和田・奥入瀬・八戸みちのく紀行	AAFGB	JDCCEB	FDCEAA		
19 さわやか東北ゴールデンルート	AADFb	ECDKB	GDFAA		
20 みちのく見どころ周遊	AAGGDB	GDJB	KDCCB	EFDC EAA	
21 陸中海岸大縦断	AADB	EFEB	EEFAA		
22 みちのく紅葉厳選彩り15景	AAGGGB	DDEJCB	GGGAA		
23 錦秋のみちのく大紀行	AACB	FDCB	EFB	GGGAA	
24 みちのくベストコース～十和田・松島	AACDFB	CJJB	GDJGGAA		
25 みちのく三昧～花巻・十和田・蔵王	AAGGB	HFDB	HGDB	JGAA	
26 みちのく紀行～八幡平・奥入瀬	AAGGB	CDEEB	HAA		
27 みちのく小京都角館・最上川下り	AACDDB	EKGB	JEFAA		
28 東北大感動号～十和田湖・中尊寺・松島	AAKDFB	EHICB	GGGAA		
29 ランプの宿・秘湯苧荷に泊まるみちのく紀行	AAB	DFJJB	GGGAA		
30 天然の露天風呂～奥入瀬・蔵王	AAGGB	GHCb	DEJAA		
31 お部屋食にこだわる奥入瀬・松島	AAHDEB	JCJB	GFAA		
32 松島と秋保温泉	AAGGJB	KKKAA			
33 秋まっさかり会津・磐梯・松島～フルーツ持りと紅葉の名所巡り	AAGKCB	DDGDJB	DGGFAA		
34 紅葉のみちのく縦断ゴールデンルート	AAHB	ICGDDb	DKFB	JGDGGGAA	
35 東北うまいもん食べ歩き	AAJB	JHIB	EJJJAA		
36 絶景陸中海岸とみちのくハイライト	AAGGFGB	CFDEB	DDDIEAA		
37 豪快石焼料理と十和田・松島	AAGGFGB	IEFDB	EEEKAA		

ツア一名	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
38 十和田・八幡平・松島・中尊寺	AACEB	FDGB	GGFGAA		
39 感動のまるごと東北～十和田・奥入瀬・松島	AAGGFGB	JDCCEB	DHAA		
40 みちのく露天風呂紀行～十和田・奥入瀬・花巻	AAKDB	FDEB	GGGFAA		
41 十和田・奥入瀬・中尊寺・松島と山寺・蔵王・五色沼	AADDEB	GGGGB	DKDGGAA		
42 秘境・恐山と十和田奥入瀬・松島・中尊寺	AAICB	DFEJB	GGGFAA		
43 陸中海岸と十和田・男鹿・古牧温泉	AAGGGB	FEEB	EEEKAA		
44 山寺・五色沼・会津・喜多方・日光・鬼怒川温泉	AAJGDB	HGGHEEB	DDGGAA		
45 鳴子・蔵王温泉と最上川舟下り	AAGDB	DGGFB	EJGGAA		
46 十和田・奥入瀬・松島・中尊寺	AAGGFGB	EDDAA			
47 東北一周～十和田	AAKGGGB	CFEEDB	DFEHCB	DHFB	HHGAA
48 東北縦断～八幡平	AAGGEB	DGFB	CIJEB	FDCCHAA	
49 ぐるっとみちのく～十和田・奥入瀬・中尊寺	AAKKDB	DDFDEB	IGJGGAA		
50 紅葉まっさかり～十和田・奥入瀬と名湯鳴子温泉	AAEDB	CDDKB	EJGDGGAA		
51 みちのく満喫～十和田・奥入瀬と日本三景松島海岸	AAFGB	JKDDCEB	FDA A		
52 絶景・陸中海岸あわび食べ放題と日本一の大岩風呂	AAFEB	KFEB	DDEJAA		
53 紅葉列車とみちのく名湯めぐり	AAFGB	JKDFB	EEJEJIHB	EDFDAA	
54 東北一周～十和田	AAKGGGB	CFEEDB	DFEHCB	DHFB	HHGAA
55 東北縦断～八幡平	AAGGEB	DGFB	CDIJE B	FDCCHAA	
56 とわだ・おいらせスペシャル～秋燃える紅葉を大満喫	AAKFGGHB	JIIDFB	EDCCGKAA		
57 東北フルコース～日本人・心のふるさと見つけ旅	AAGGGB	DGGJB	DKAA		
58 とわだ・おいらせ～志戸平プラン	AAKFGGHB	JIIDFB	DEDCGKAA		
59 とわだ・おいらせ～花巻プラン	AAKFGGHB	JIIDFB	EDCCGKAA		
60 みちのくゆりの旅	AAKGJB	FGGGB	CHIEFB	DCHIHAA	
61 とわだ・おいらせスペシャル～あざやかな紅葉と湯めぐり三昧	AAKFGGHB	JIIDFB	EDCCGKAA		
62 とわだ・おいらせ	AAKFGGHB	JIIDFB	EDCCGKAA		
63 とわだ・おいらせスペシャル～あざやかな紅葉と湯めぐり三昧	AAKFGGHB	JIIDFB	EDCCGKAA		
64 とわだ・しらかみ	AAKB	KGB	EDIEB	DICDCAA	
65 とわだ・おいらせ～志戸平温泉&十和田湖泊	AAGGHB	JIIDFB	EDCCGAA		
66 とわだ・おいらせ～花巻温泉&十和田湖泊	AAGGHB	JIIDFB	EDCCGAA		
67 みちのく厳選のお宿と東北の魅力にこだわる至高・極上の旅	AAKGJB	FGGGB	CHIEFB	DCHAA	

種別分類は、A：空港、B：宿泊地、C：山・高原、D：湖沼・ダム、E：展望台、F：遊覧船・鉄道、G：寺院・城・墓地、H：博物館・美術館、I：物産館、J：体験・工房・牧場、K：その他、の11分類である。

JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行のパフレット（9～12月）により作成。

（体験・工房・牧場）→E（展望台）→B（宿泊地）、4日目が「F（遊覧船・鉄道）→D（湖沼・ダム）→C（山・高原）→C（山・高原）→H（博物館・美術館）→A（空港）→A（空港）」という3泊4日の行程である。この3つ

の例から読み取れることは、全体でも日ごとでも複数の種別を組み合わせた行程になっていること、1日あたり3～5か所を見学する行程になっていることの2点である。

種別分類では、寺院・城・墓地を見学する回

第2表 観光地等の種別分類ごとの入込回数

分類	回数
A：空港	273
B：宿泊地	144
C：山・高原	78
D：湖沼・ダム	130
E：展望台	94
F：遊覧船・鉄道	89
G：寺院・城・墓地	202
H：博物館・美術館	53
I：物産館	38
J：体験・工房・牧場	69
K：その他	44

入込回数は、第1表を集計した数値である。
JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行のパンフレット(9～12月)により作成。

数が多いようにみえるが、実際はどのようなのだろうか。そこで、第2表には種別分類ごとの入込回数を示したが、これを多い順に並べると、A(空港)は273回、G(寺院・城・墓地)は202回、B(宿泊地)は144回、D(湖沼・ダム)は130回、E(展望台)は94回、F(遊覧船・鉄道)は89回、C(山・高原)は78回、J(体験・工房・牧場)は69回、H(博物館・美術館)は53回、K(その他)は44回、I(物産館)は38回であった。このなかで、K(その他)および観光地ではないA(空港)とB(宿泊地)を除くと、自然観光資源で最も多いのは湖沼・ダム、人文観光資源で最も多いのは寺院・城・墓地であった。全体ではやはり寺院・城・墓地が断然トップであることがわかる。

各パッケージツアーでは、寺院・城・墓地を全行程のなかで何回見学するのだろうか。そこで、寺院・城・墓地に行く回数をツアーごとに数えてみたが、その結果は0回が4ツアー(占有率6.0%)、1回が9ツアー(同13.4%)、2回が6ツアー(同9.0%)、3回が29ツアー(同43.3%)、4回が10ツアー(同14.9%)、5回が4ツアー(同6.0%)、6回が4ツアー(同6.0%)、7回が1ツアー(同1.5%)であった。この7回見学するのは2番のツアーであるが、

1日目は「A→A→G→G→J→B」で2回連続、2日目は「H→G→F→J→B」で1回、3日目は「G→G→G→G→A→A」で4回連続というように2泊3日のなかで毎日見学する行程になっている。以上から、寺院・城・墓地を見学する回数は1ツアーあたり0～7回までであるが、そのなかで最も多いのは3回であることがわかった。

2. 観光地等の地点にみる行程の特徴

本節では観光地等の地点にみる行程の特徴について明らかにする。観光地等の種別分類(A～Kの11分類)にそれぞれの地点番号(1～)を加えた一覧と地点別入込回数は第3表に示した。さらに、この第3表の地点番号に従って作成した各パッケージツアーの行程は第4表の通りである。

1節では、種別分類にみる行程について3つの例を提示したが、本節ではそれに第4表から地点を読み取って詳しくみることにする。まず、28番の「東北大感動号—十和田湖・中尊寺・松島」は、1日目が「A13(広島空港)→A(青森空港)→K1(蕨温泉)→D3(奥入瀬溪流)→F1(十和田湖遊覧船)→B5(十和田湖温泉)」、2日目が「E1(発荷峠)→H10(康楽館)→I7(鹿角観光ふるさと館あんたらあ)→C6(八幡平)→B7(花巻温泉)」、3日目が「G2(中尊寺)→G5(瑞巖寺)→G4(五大堂)→A5(仙台空港)→A13(広島空港)」という2泊3日の行程である。次に、54番の「東北一周—十和田」は、1日目が「A11(伊丹空港)とA12(関西国際空港)→A5(仙台空港)→K5(仙台駅)→G5(瑞巖寺)→G4(五大堂)→G2(中尊寺)→B7(花巻温泉)」、2日目が「C8(区界高原)→F3(浄土ヶ浜遊覧船)→E5(田野畑)→E4(北山崎)→D3(奥入瀬溪流)→B5(十和田湖温泉)」、3日目が「D3(奥入瀬溪流)→F1(十和田湖遊覧船)→E1(発荷峠)→H10(康楽館)→C6(八幡平)→B11(鶯宿温泉)」、4日目が「D10(田沢湖)→H12(角館伝承館)→F8(最上川舟下り)→B31(あつみ温泉)」、

第3表 観光地等の地点一覧と地点別入込回数

分類	道府県名	地点名	数	分類	県名	地点名	数	分類	県名	地点名	数	
空港(A)	北海道	1. 新千歳	10	湖沼・ダム(D)	青森	1. 十二湖	1	博物館・美術館(H)	青森	1. 津軽三味線会館	1	
	青森	2. 青森	22			2. 十和田湖	10			2. 津軽藩ねふた村	1	
		3. 三沢	2			3. 奥入瀬溪流	53			3. 三内丸山遺跡	3	
	岩手	4. 花巻	12			4. かつば沼	1			4. ねふたの里	8	
	宮城	5. 仙台	95			岩手	5. 龍泉洞			3	5. 金木斜陽館	1
	秋田	6. 大館能代	2				6. 巖美溪			10	6. 宮沢賢治記念館	2
		7. 秋田	8			7. 蔵王御釜	9			7. 伝承園	1	
	福島	8. 福島	1			秋田	8. 八幡平大沼			10	8. とおの昔話村	1
	新潟	9. 新潟	6				9. 玉川ダム			3	9. みちのけ伊達政宗歴史館	8
	愛知	10. 名古屋	59			10. 田沢湖	15			秋田	10. 康楽館	9
	大阪	11. 伊丹	19			11. 寒河江ダム	1				11. 角館歴史村青柳家	1
		12. 関西国際	12		山形	12. 猪苗代湖	1			12. 角館伝承館	1	
	広島	13. 広島	18			13. 五色沼	7			13. 武家屋敷西宮家	1	
		福岡	14. 福岡		16	14. 松原湖	4			14. 致道博物館	1	
宿泊地(B)	青森		1. むつ	1	栃木	15. 中禅寺湖	1	山形	15. 本間家旧本邸	2		
		2. 古牧	8	16. 華厳の滝		1	16. 山居倉庫		2			
		3. 青荷	1	青森		1. 発荷峠	44		福島	17. 会津酒造歴史館	1	
		4. 大鵬	1			2. 蹴湖台	2			18. 会津うるし美術館	3	
		5. 十和田湖	31			3. 釧野高原	6			19. 会津村	1	
		6. 焼山	1			4. 北山崎	9			20. 野口英世記念館	1	
	岩手	7. 花巻	20		5. 田野畑	4	21. 安達ヶ原ふるさと村	1				
		8. 南花巻	2		6. 三王岩	1	22. 大内宿町並み展示館	1				
		9. 志戸平	6	7. 鶴の巣断崖	4	23. 会津武家屋敷	1					
		10. 渡り	1	8. 碓石海岸	2	24. 白虎隊記念館	1					
		11. 鶯宿	11	宮城	9. 巨釜・半造	2	青森	1. 下北名産センター	2			
		12. 繫	6		10. 鳴子峡	6		2. 林檎館	14			
	岩手	13. 安比高原	1	秋田	11. 湯瀬渓谷	1		3. 奥入瀬溪流観光センター	1			
		14. 田野畑	1		12. 入道崎	3		4. 青森県観光物産館アスパム	1			
		15. 岩泉	1		13. 八望台	3		岩手	5. 釜石橋上市場	1		
		16. 田老	1		14. 寒風山	4			6. 金婚亭	1		
		17. 釜石	2		山形	15. 十六羅漢岩	1	秋田	7. 鹿角観光ふるさと館あんたらあ	17		
		18. 東八幡平	1		福島	16. 塔のへつり	1		8. きみまちの里	1		
宮城	19. 気仙沼	1	栃木	17. 龍王峡	1	岩手	1. 岩崎鉄器会館	6				
	20. 松島	1	青森	1. 十和田湖遊覧船	37		2. 酒造あき館	3				
	21. 鳴子	8	岩手	2. 三陸鉄道	3		3. 盛岡手づくり村	1				
	22. 秋保	1		3. 浄土ヶ浜遊覧船	9		4. 小岩井農場	22				
	23. 仙台中心部	1	宮城	4. うみねこ航路	1	宮城	5. 鳴子こけし工房	8				
	24. 遠刈田	1		5. 現鼻溪舟下り	4		6. 古川こけし工房	8				
	秋田	25. 大湯	1	宮城	6. 松島湾遊覧船		27	7. 秋保工芸の里	1			
		26. 田沢湖高原	6	秋田	7. 秋田内陸縦貫鉄道		1	8. 遠刈田こけし工房	2			
		27. 男鹿	3	山形	8. 最上川舟下り	7	秋田	9. 田園市場秋田美人	1			
		28. 湯瀬	2	青森	1. 青龍寺	1		10. なまはげ館	1			
	山形	29. 蔵王	10	岩手	2. 中尊寺	54		11. ミカンハウス	1			
		30. 天童	3		3. 毛越寺	2	12. 大湯観光りんご園	2				
31. あつみ		2	宮城		4. 五大堂	51	13. 平塚果樹園	4				
32. 湯野浜		1			5. 瑞巖寺	52	14. 天童将棋の駒工房	7				
福島	33. 東山	3		6. 円通院	1	15. 寒河江フルーツ観光園	1					
	34. 猪苗代	1		7. 塩釜神社	1	福島	16. 会津漆器工房	1				
栃木	35. 磐梯熱海	1	8. 仙台北城跡	2	青森		1. 葛温泉	3				
	36. 横向	1	9. 白石城	1		2. 弘前市内	1					
山・高原(C)	青森	37. 鬼怒川	1	山形	10. 出羽三山神社	4	岩手	3. 釜石市内	1			
		1. 恐山	3		11. 国宝五重塔	2		4. 盛岡市内	1			
		2. 焼山	5		12. 大日坊	1		宮城	5. 仙台駅	18		
		3. 城ヶ倉大橋	5		13. 山寺	14			6. 仙台市内	3		
	秋田	4. 八甲田山	11	14. 上杉神社	2	秋田	7. 角館町内	14				
		5. 後生掛	4	福島	15. 二本松霞ヶ城公園		1	福島	8. 高湯温泉	1		
	岩手	6. 八幡平	35		16. 鶴ヶ城	6	9. 喜多方		2			
		7. 東八幡平	9	17. 飯盛山	5	入込回数は、第4表を集計した数値である。 JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行のパンフレット (9～12月)により作成。						
	8. 区界高原	3	18. 輪王寺	1								
	福島	9. 浄土平	3	19. 日光東照宮	1							

5日目が「H15(本間家旧本邸)→H16(山居倉庫)→G13(山寺)→A5(仙台空港)→A11(伊丹空港)」という4泊5日の行程である。最後に、55番の「東北縦断～八幡平」は、1日目が「A11(伊丹空港)とA12(関西国際空港)→A5(仙台空港)→G5(瑞巖寺)→G4(五大堂)→E10(鳴子峡)→B21(鳴子温泉)」、2日目が「D6(厳美溪)→G2(中尊寺)→F5(狢鼻溪舟下り)→B11(鶯宿温泉)」、3日目が「C6(八幡平)→D8(八幡平大沼)→I7(鹿角観光ふるさと館あんたらあ)→J12(大湯観光りんご園)→E1(発荷峠)→B5(十和田湖温泉)」、4日目が「F1(十和田湖遊覧船)→D3(奥入瀬溪流)→C2(焼山)→C4(城ヶ倉大橋)→H3(三内丸山遺跡)→A2(青森空港)→A11(伊丹空港)」という3泊4日の行程である。この3つの例から読み取れることは、①パターンは、a. 仙台空港に入った後、北上しながら観光地をめぐる青森空港から帰るツアー、b. 仙台空港に入った後、ほぼ一周しながら観光地をめぐる再び仙台空港から帰るツアー、c. 青森空港に入った後、南下しながら観光地をめぐる仙台空港から帰るツアーの3つに分けられること、②パッケージツアーは移動距離が長いが、それは商品名に記されている「東北一周、東北縦断」からも想像ができること^{▼8}、③観光する地点はツアーごとに異なるが、中尊寺、瑞巖寺、五大堂、八幡平、奥入瀬溪流などの名所には行っていること、の3点である。

仙台空港の利用状況については、先述した行程の3パターンに当てはめてみると、a. 仙台空港を往路で利用するパターンは67ツアー中21ツアー(占有率31.3%)、b. 仙台空港を往復路で利用するパターンは28ツアー(占有率41.8%)、c. 仙台空港を復路で利用するパターンは18ツアー(占有率26.9%)であった。以上から、仙台空港は往復路で利用するパッケージツアーが最も多く、その割合は全体の約40%を占めることがわかった。仙台空港は主要空港と結ばれている他、その便数も比較的多いため、旅行会社では仙台空港を往復路で利用するパ

ターンが組みやすいのではないかと考える。

北関東の一部を含めた東北全県への入込があることは第3表からわかるが、そのなかでも入込の多い地点はどこなのだろうか。ここでは、観光地等の地点別入込回数を示した第3表からそのトップ10をみた結果、順位は①A5(仙台空港)が95回、②G2(中尊寺)が54回、③D3(奥入瀬溪流)が53回、④G5(瑞巖寺)が52回、⑤G4(五大堂)が51回、⑥E1(発荷峠)が44回、⑦F1(十和田湖遊覧船)が37回、⑧C6(八幡平)が35回、⑨B5(十和田湖温泉)が31回、⑩F6(松島湾遊覧船)が27回であった^{▼9}。また、これらの地点へ行く確率は、①中尊寺が80.6%、②奥入瀬溪流が79.1%、③瑞巖寺が77.6%、④五大堂が76.1%、⑤仙台空港が70.9%、⑥発荷峠が65.7%、⑦十和田湖遊覧船が55.2%、⑧八幡平が52.2%、⑨十和田湖温泉が46.3%、⑩松島湾遊覧船が40.3%であった^{▼10}。1～8位までの地点は50%を超える高率となっている。

K(その他)を除いた種別分類ごとの地点別入込回数の1位のみ示すと、A(空港)では仙台空港^{▼11}、B(宿泊地)では十和田湖温泉^{▼12}、C(山・高原)では八幡平^{▼13}、D(湖沼・ダム)では奥入瀬溪流^{▼14}、E(展望台)では発荷峠^{▼15}、F(遊覧船・鉄道)では十和田湖遊覧船^{▼16}、G(寺院・城・墓地)では中尊寺^{▼17}、H(博物館・美術館)では康楽館^{▼18}、I(物産館)では鹿角観光ふるさと館あんたらあ^{▼19}、J(体験・工房・牧場)では小岩井農場^{▼20}であった。以上から、種別分類ごとの地点別入込回数の1位は、いずれも各県を代表するような観光地や温泉地、空港が名を連ねている。

3. 観光地での行動にみる行程の特徴

本節では、観光地での行動について明らかにするため、ここでは各パッケージツアーのパンフレットに記載されている内容から把握した。その結果、観光地での行動は、昼食、自由散策、ショッピング、こけし絵付け体験、きりたんぼ作り体験、りんご狩り体験、餌付け体験、いか徳利作り体験があることがわかった。ここで

は、それぞれの行動がどの観光地で行われているのかについて詳しくみていく。

まず、昼食は多くの地点でとられているが、その上位3は①G5（瑞巖寺）が41回、②I7（鹿角観光ふるさと館あんたらあ）が17回、③K7（仙北市角館）が16回であった。なかでも、瑞巖寺は断然トップであった。昼食の時間はどの地点でも30分程度となっている。

自由散策は、多くの地点で行われているが、その上位3は①K7（仙北市角館）が16回、②D13（五色沼）が7回、③K9（喜多方市内）が3回であった。仙北市角館は武家屋敷の町並みを散策させるものである。パッケージツアーは、それぞれの地点においてバスガイドや添乗員が先導や案内をしながら参加者全員で移動するのが普通であるが、角館は自由に観光する様子をみる可能性が大きい地点でもある。

ショッピングは、多くの地点で行われているが、その上位3は①I2（林檎館）が12回、②K7（仙北市角館）が3回、③I1（下北名産センター）が2回であった。入込回数の最も多い林檎館（十和田市）は、その名の通り青森りんごやその加工品の他、水産加工品なども扱った物産館である。

こけし絵付け体験は、J5（鳴子こけし工房）が8回、J8（遠刈田こけし工房）が2回、J6（古川こけし工房）が1回のみであった。こけし絵付け体験ができるこけし工房は東北各地にあるが、このパッケージツアーでは宮城県のみでしか行われていない。

きりたんぼ作り体験は、I7（鹿角観光ふるさと館あんたらあ）が17回とJ9（田園市場秋田美人）が1回のみであった。きりたんぼ作り体験はその本場の秋田県でしか行われていない。

りんご狩り体験は、J13（平塚果樹園）が4回とJ12（大湯観光りんご園）が2回の2か所でのみ行われている。りんご狩り体験ができる観光果樹園は東北各地にあるが、このパッケージツアーではいずれも秋田県の観光果樹園のみであった。

いか徳利作り体験は、K3（釜石市内）が1回の1か所でのみ行われている。なお、釜石市

内のどこでやるのかについては、パンフレットに記載がないため不明である。

餌付け体験は、F3（浄土ヶ浜遊覧船）が45回の1か所のみで行われている。浄土ヶ浜遊覧船の餌付け体験は、船上からうみねこにかっぱえびせんを与えるというものである。

以上をまとめると、①観光地では昼食、自由散策、ショッピング、こけし絵付け体験、きりたんぼ作り体験、りんご狩り体験、餌付け体験、いか徳利作り体験が行われていること、②いか徳利作り体験は釜石市内、餌付け体験は浄土ヶ浜遊覧船のみでしか行われていないが、昼食は瑞巖寺、自由散策は角館、ショッピングは林檎館、こけし絵付け体験は鳴子こけし工房、きりたんぼ作り体験は鹿角観光ふるさと館あんたらあ、りんご狩り体験は平塚果樹園への入込回数が最も多かったこと、の2点が明らかとなった。

Ⅲ. 松島での実態調査の結果

2002年11月20日には、松島においてパッケージツアーの実際の様子、参加者の年齢層や目的などを把握するための実態調査を行った。本章はその結果をまとめたものである。

本研究で取り上げたパッケージツアーでは、松島では松島温泉や松島湾遊覧船、五大堂、瑞巖寺、円通院、みちのく伊達政宗歴史館への入込がある（第3表）^{▼21}。Ⅱ章2節で示したように、瑞巖寺への入込回数は全地点の4位、五大堂は同じく5位、松島湾遊覧船は同じく10位に入る多さとなっている。

11月20日の昼頃には、JTBの「みちのく温泉天国」（2泊3日）に出会うことができた。このパッケージツアーは最終日の3日目に松島に来たが、この日は宿泊地の蔵王温泉を朝に出発し、山寺と松島（瑞巖寺、五大堂、昼食）を観光した後、仙台空港へ向かう行程であった。聞き取りは、昼食の時間にバス運転手やバスガイド、添乗員、数人の参加者に対して行わせていただいた。質問には口頭で自由に応えてもらった。

この日の「みちのく温泉天国」の参加人数は

44名、性別では女性がほとんど、年齢は50～70代であった。参加者は夫婦や少人数の旅仲間て構成されていたが、皆に共通していたのは、旅好きであることと、これまでもパッケージツアーへの参加経験があることの2点であった。

このパッケージツアーに参加しようと思ったきっかけは、旅先での人とのふれあい、旅仲間との交流、ストレス解消、休日利用などであった。なかには、青森県にのみ行ったことがないため、今回は十和田湖温泉、十和田湖遊覧船、奥入瀬溪流が入ったこのパッケージツアーに参加したという人もいた。

パッケージツアーを選ぶ時に気にすることは、価格の安さ、行程、観光地、宿泊地、食事、旅行会社のなかから1つか2つをあげる人がほとんどであった。

3枚の写真はこのパッケージツアーの様子を撮影したものである。団体客は観光バスの駐車場に到着(写真1)すると、バスガイドの案内に従って瑞巖寺や五大堂へと移動する(写真2)。滞在時間は、施設見学が約30分、昼食が約30分となるため、パッケージツアーでは1地点に長時間滞在しない。団体客が入ってきた時はにぎやかな光景となるが、その30分後には閑散とした光景になってしまう(写真3)。バス運転手によると、パッケージツアーでは移動距離が長い上、多くの観光地に行くため、渋滞にはまった時は1地点の滞在時間がさらに短くなることもあるとのことであった。過密スケジュールのパッケージツアーでは、遅れが生じた時の時間調整がかなり難しいのではないかと考える。

以上をまとめると、①参加者は旅好きということに加えて、これまでもパッケージツアーに参加したことがあるため、パッケージツアーの特徴の1つとも言える長距離移動やバス移動などには慣れていたこと、②参加者はパッケージツアーを選ぶ条件や目的がはっきりとしていたこと、③パッケージツアーは限られた時間のなかで多くの観光地をまわるため、それぞれの地点での滞在時間はかなり短いこと、の3点がわかった。



写真1 観光バスの駐車場に到着した団体客
02.11.20撮影



写真2 瑞巖寺や五大堂への移動
02.11.20撮影



写真3 団体客が帰った後の閑散とした光景
02.11.20撮影

IV. おわりに

本研究では、往路または復路あるいは往復路で仙台空港を利用した東北地方のパッケージツアーの特徴を明らかにするため、ここでは、①観光地等の種別分類にみる行程の特徴、②観光地等の地点にみる行程の特徴、③観光地での行動にみる行程の特徴、④パッケージツアーの実際の様子、参加者の年齢層や目的などを把握するために行った松島での実態調査の結果の4点から検討を加えた。明らかとなった点は以下の通りである。

観光地等の種別分類にみる行程の特徴については、①全体的には様々な形態を組み合わせた行程になっていること、②1日あたりでは3～5か所を見学する行程になっていること、③種別分類ごとの入込回数では寺院・城・墓地が断然トップの地位にあること、④寺院・城・墓地は9割以上のツアーが見学しているが、1ツアーあたりの見学回数は3回が最も多いこと、の4点が明らかとなった。

観光地等の地点にみる行程の特徴については、①行程のパターンは、a. 青森空港に入った後、南下しながら観光地をめぐる仙台空港から帰るツアー、b. 仙台空港に入った後、ほぼ一周しながら観光地をめぐる再び仙台空港から帰るツアー、c. 仙台空港に入った後、北上しながら観光地をめぐる青森空港から帰るツアーの3つに分けられること、②パッケージツアーは移動距離が長い、それは商品名に記されている「東北一周、東北縦断」からも想像ができること、③観光する地点はツアーごとに異なるが、中尊寺、瑞巖寺、五大堂、八幡平、奥入瀬溪流などの名所には行っていること、④①に示した行程の3パターンのなかでは、bの仙台空港を往復路で利用するツアーが最も多く、その割合は全体の約40%を占めること、⑤地点別入込回数の上位10は、仙台空港、中尊寺、奥入瀬溪流、瑞巖寺、五大堂、発荷峠、十和田湖遊覧船、八幡平、十和田湖温泉、松島湾遊覧船であるが、このなかで十和田湖温泉と松島湾遊覧船

を除いた8地点には50%以上の高い確率で行っていること、⑥種別分類ごとの地点別入込回数の1位は、いずれも各県を代表するような観光地や温泉地、空港が名を連ねていること、の6点が明らかとなった。

観光地での行動にみる行程の特徴については、①観光地では昼食、自由散策、ショッピング、こけし絵付け体験、きりたんぼ作り体験、りんご狩り体験、餌付け体験、いか徳利作り体験が行われていること、②いか徳利作り体験は釜石市内、餌付け体験は浄土ヶ浜遊覧船のみでしか行われていないが、昼食は瑞巖寺、自由散策は角館、ショッピングは林檎館、こけし絵付け体験は鳴子こけし工房、きりたんぼ作り体験は鹿角観光ふるさと館あんとらあ、りんご狩り体験は平塚果樹園への入込回数が最も多かったこと、の2点が明らかとなった。

パッケージツアーの実際の様子、参加者の年齢層や目的などを把握するために行った松島での実態調査の結果からは、①参加者は旅好きということに加えて、これまでもパッケージツアーに参加したことがあるため、パッケージツアーの特徴の1つとも言える長距離移動やバス移動などには慣れていたこと、②参加者はパッケージツアーを選ぶ条件や目的がはっきりとしていたこと、③パッケージツアーは限られた時間のなかで多くの観光地をまわるため、それぞれの地点での滞在時間はかなり短いこと、の3点が明らかとなった。

最後に、本研究の調査時期は9～12月であったため、題目により近づけるには他の時期も調査する必要があったと考える。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降は、仙台空港を利用した東北地方のパッケージツアーにも何かしらの影響が出ていると考えられる。今後は最新版でも検討していくことを視野に入れた。

謝辞

本研究の作成にあたっては、パッケージツアーのパンフレットを提供していただいた

JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行の各仙台支店の皆様、2002年11月20日に松島で聞き取り調査に協力していただいた「みちのく温泉天国」(JTB)のバス運転手やバスガイド、添乗員、参加者の皆様に大変お世話になりました。ここに記して心より感謝申し上げます。

参考文献・資料

- ・広辞苑(1998):パッケージ・ツアー、第5版、2155.
- ・玉村和彦(1999):日本におけるパッケージ・ツアーの誕生、同志社大学同志社商学50巻5-6号、895-908.
- ・壺江 隆(2001):観光と観光産業の現状、文化書房博文社、34-35.
- ・前田 勇・橋本俊哉(1995):第19章 観光と旅行業——システムオーガナイザーとしての役割——、前田 勇編著:現代観光総論、学文社、177-188.
- ・山村順次・石 曉玲(2000):日本におけるパッケージツアーの実態と課題——東京発北海道・九州旅行を例として——、千葉大学地理学研究报告11号、9-18.

注

- ▼1 旅行会社のホームページやパンフレットなどでは、「パッケージツアー」の他に「バックツアー」「バック」「ツアー」などと略されているものもある(玉村1999)。なお、「バックツアー」は和製英語である(広辞苑1998)。
- ▼2 旅行業法は、1971年に1952年制定の旅行あっ旋業法が改題された法律である。旅行業法には、旅行業の定義、旅行者の観光庁長官への登録、営業保証金の供託や額、取引額の報告、旅行業務取扱管理者の選任や試験、料金の揭示、企画旅行の広告、誇大広告の禁止、禁止行為などが定められている。詳細はe-Govウェブサイト内にある旅行業法(<http://law.e-gov.go.jp/htldata/S27/S27HO239.html>)を参照。最終検索は2015年8月24日。
- ▼3 旅行会社と旅行者との間で交わされる契約書には「募集型企画旅行」と表記されている。
- ▼4 現在の旅行業で行われている交通機関と宿泊のセット旅行の販売、団体割引料金制度、ツアーコンダクターの配置、旅行案内誌の発行、パンフレットの作成などの業務や制度の多くはクックが始めたものである(前田・橋本1995)。
- ▼5 JTBのWebページ内にある「会社情報・沿革」(<http://www.jtbcorp.jp/jp/company/history/>)によると、日本交通公社の前身は1912年3月に設立した「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」である。その後、1941年8月には「社団法人東亜旅行社」、1942年12月には「財団法人東亜旅行社」、1943年12月には「財団法人東亜交通公社」、1945年9月には「財団法人日本交通公社」、1963年11月には「株式会社日本交通公社」、2001年1月には現在の「株式会社ジェイティービー(英文名称:JTBCorp.)」と改称した。旅行業の他には、ホテル業や不動産業、出版業なども行っている。最終検索は2015年8月24日。
- ▼6 JTBのWebページ内にある「会社情報・沿革」(<http://www.jtbcorp.jp/jp/company/history/>)によると、海外向けのパッケージツアーのブランドネームを「ルック」と決定したのは1968年6月であった。国内向けのパッケージツアーの販売は、1971年1月から「エース」というブランドネームで始まった。最終検索は2015年8月24日。
- ▼7 種別分類は性質の似ているものをまとめた便宜的な区分である。
- ▼8 パッケージツアーでは、初日の最初と最終日の最後の移動は航空機を利用するが、他は観光バスを利用した移動となる。また、道路は高速道路の利用度が高い。
- ▼9 A10(名古屋空港)は59回であるが、名古屋空港は初日の出発空港あるいは最終日の到着空港になるため、ここでは東北地方の地点のみに限定してとらえた。
- ▼10 仙台空港と奥入瀬溪流以外は、ツアー数と同じ67回で割った。空港の場合は往路と復路で使うため、1空港の最多は134(ツアー数67回×2)回となる。また、奥入瀬溪流は54番のツアーが2回行っているため、この地点の最多は68回となる。
- ▼11 A(空港)は、東北地方に限定すると、山形県内の2空港(山形空港と庄内空港)を除く5県のすべての空港が利用されている。利用回数の上位3は、①A5(仙台空港)が95回、②A2(青森空港)が22回、③A4(花巻空港)が12回であった。
- ▼12 B(宿泊地)は、東北全県に入込があるが、その上位3は、①B5(十和田湖温泉)が31回、②B7(花巻)が20回、③B11(鴛宿)が11回であった。宿泊地

はどの県も主要な温泉地が選ばれている。このなかで、十和田湖温泉の入込回数は全地点の9位に入る。

▼13 C(山・高原)は、宮城県と山形県を除く4県、とくに北東北の入込が中心である。入込回数の上位3は、①C6(八幡平)が35回、②C4(八甲田山)が11回、③C7(東八幡平)が9回であった。このなかで、八幡平の入込回数は全地点の8位に入る。

▼14 D(湖沼・ダム)は、東北全県に入込があるが、その上位3は、①D3(奥入瀬溪流)が53回、②D10(田沢湖)が15回、③D2(十和田湖)とD6(厳美溪)とD8(八幡平大沼)が10回ずつであった。このなかで、奥入瀬溪流の入込回数は全地点の3位に入る。

▼15 E(展望台)は、東北全県に入込があるが、その上位3は、①E1(発荷峠)が44回、②E4(北山崎)が9回、③E3(萱場高原)とE10(鳴子峡)が6回ずつであった。このなかで、発荷峠の入込回数は全地点の6位に入る。

▼16 F(遊覧船・鉄道)は、福島県を除いた5県への入込があるが、その上位3は、①F1(十和田湖遊覧船)が37回、②F6(松島湾遊覧船)が27回、③F3(浄土ヶ浜遊覧船)が9回であった。このなかで、十和田湖遊覧船の入込回数は全地点の7位、松島湾遊覧船は同じく10位に入る。

▼17 G(寺院・城・墓地)は、秋田県以外の5県への入込があるが、その上位3は、①G2(中尊寺)が54回、②G5(瑞巖寺)が52回、③G4(五大堂)が51回であった。このなかで、中尊寺の入込回数は全地点の2位、瑞巖寺は同じく4位、五大堂は同じく5位に入る。

▼18 H(博物館・美術館)は、東北全県に入込があるが、その上位3は、①H9(康楽館)が9回、②H4(ねふたの里)とH9(みちのく伊達政宗歴史館)が8回ずつ、③H3(三内丸山遺跡)とH18(会津うるし美術館)が3回ずつであった。

▼19 I(物産館)は、北東北のみの入込であるが、その上位3は、①I7(鹿角観光ふるさと館あんたらあ)が17回、②I2(林檎館)が14回、③I1(下北名産センター)が2回であった。

▼20 J(体験・工房・牧場)は、青森県以外の5県への入込があるが、その上位3は、①J4(小岩井農場)が22回、②J5(鳴子こけし工房)とJ6(古川こけし工房)が8回ずつ、③J14(天童将棋の駒工房)が7回であった。

▼21 他には、観瀾亭(かんらんてい)、天麟院(てんりんいん)、福浦橋、藤田喬平ガラス美術館、ベルギー

オルゲールミュージアム(旧、松島オルゴール博物館)、松島さかな市場などの観光資源がある。なお、ベルギーオルゲールミュージアムは東日本大震災による建物被害が大きく、2011年4月18日には再開断念および閉館を発表した。